

「歴代川島甚兵衛の情熱がやどる 織物のための屏風絵」展

川島織物文化館 2022年7月20日(水) ~ 2023年6月2日(金)



株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：木村弘一）は、本社に併設の川島織物文化館（京都市左京区）で、「歴代川島甚兵衛の情熱がやどる 織物のための屏風絵」展を7月20日（水）より開催、明治から昭和のはじめに手掛けた綴織屏風の製作資料を紹介します。

風よけや衝立として使用される屏風は、7世紀ごろに新羅から日本に伝わったと言われており、中世頃からは水墨画や大和絵など豪華な屏風の制作が盛んになり、輸出もされるようになりました。

川島織物セルコンは、明治中期より屏風の制作を手掛けはじめました。当時は、刺繍やビロード友禅を施した屏風が多く作られ、欧米へも輸出されていましたが、当社は織物の屏風制作にこだわり、中でも表裏どちら側から見ても美しい「両面綴」という独自の技法を用いた屏風の制作に注力しました。

またデザイン面では、屏風は構造上、絵の中に縁が入ること、特に両面綴は表裏ともに見られるため左右反転させてもバランスが取れていること、などを意識した図案の開発に努めました。併せて、洋風の生活スタイルを意識し、椅子に座ることを想定

した腰高の画面構成も取り入れました。

本展では、宮内省お買い上げ品や、外国政府への贈呈品等に用いられた屏風の原画や織下絵などを展示します。

日本画家が描いた工芸デザインの美しい構成や気品あふれる図案の数々をお楽しみ下さい。

開催概要

タイトル：歴代川島甚兵衛の情熱がやどる
織物のための屏風絵

会 期：2022年7月20日(水) ~ 2023年6月2日(金)

場 所：川島織物文化館

(京都市左京区静海市原町 265)

休 館 日：土・日・祝祭日、夏期、年末年始、
川島織物セルコン休業日

入 館 料：無料

※ ご見学は完全事前予約制です。

※ 新型コロナウイルス感染防止対策を実施しています。

詳細は ホームページ をご確認ください。

<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

■ 主な展示作品



上 段：古写真 両面綴織屏風「旭桜」

中段左：綴織屏風原画「牡丹」 川北霞峰筆（部分）

中段右：綴織屏風原画「菊花」 川北霞峰筆（部分）

下段左：綴織屏風試織「牡丹」

下段中：綴織屏風試織「百菊」

下段右：綴織屏風小下絵「百菊」

1 枚目メイン写真：綴織屏風原画「牡丹」 川北霞峰筆

※この原画より制作した「綴錦牡丹図屏風」（三の丸尚蔵館 蔵）が、京都市京セラ美術館 特別展「綺羅めく京の明治美術—世界が驚いた皇室技芸員の神業」で展示される予定です。（後期展示 2022 年 8 月 23～9 月 19 日）

■川島織物文化館 概要

1889（明治 22）年に二代川島甚兵衛が京都・三条高倉に建てた三階建ての洋館「織物参考館」に始まる国内最古の企業博物館。初代・二代 川島甚兵衛がモノづくりの研究のため世界中から収集した染織品、古書類、製作してきた原画類・試織など、織物に関する貴重な資料を保管しています。

館内では、これらの史資料や当社が手がけてきたプロジェクトにまつわる資料やエピソードを紹介し、織物の魅力や当社のごだわりのモノづくりを紹介しています。



所在地：〒601-1192

京都市左京区静海市原町 265

株式会社川島織物セルコン内

TEL：075-741-4120

開館時間：午前 10 時～午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）

休館日：土、日、祝祭日、夏期・年末年始（川島織物セルコン休業日）

入館料：無料

見学予約：見学は事前予約制

見学希望日の前日 16 時までに電話でお申込みください。

（※月曜日ご来館希望の場合は前週金曜日）

ご予約専用 TEL：075-741-4323

ホームページ：<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

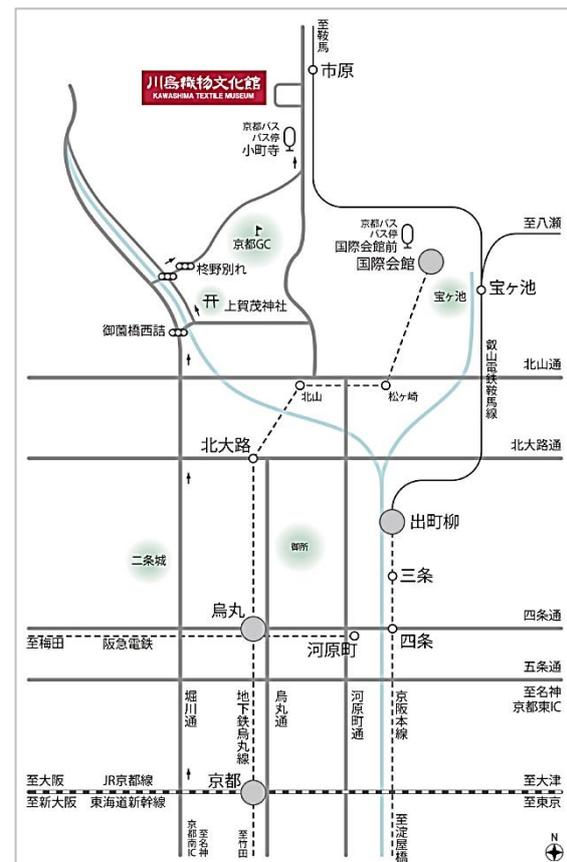
アクセス：●地下鉄「国際会館」駅より

・京都バス（50/52 系統）「小町寺」下車 徒歩約 5 分

・タクシー 約 10 分

●叡山電車 鞍馬線「市原」駅下車 徒歩約 7 分

●京都駅より タクシーで約 40 分



■川島織物文化館の運営について

川島織物文化館は、新型コロナウイルス感染防止のため、手洗い・うがい・マスク着用の徹底、咳エチケットの実施などの対策を講じた上で、運営をしています。ご不便をおかけいたしますが、ご来館のお客様にもご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。